



うな事は言えないが、これ程ハンドボールが懐しく思つた事がない。現役中、練習が辛い時にサボル様な不心得をしたり、かといつて一生懸命練習に励んだり、いわば私の部生活は何と中途半端な面が多かつたのではないか、成績が悪いのを両親はハンドボールをしてゐるからだと考へ、何度も退部する様になりわれたが、私は断固退部せず終りまでずっとやつた。へも、これも、私自身、頭の悪い事は知つていたので成績が悪いのはハンドボールのせいではないといふ事を十分承知してゐたのであるが、今から考へると退部しなかつたことが今更ながら良かったと思われぬ。しかし、本音を吐くと一年生の時、即ち入部した頃の私は、今まで二十米さへも走れない体力の持ち主であつた。この体で浅野氏、西原氏等のモノスゴイ体力の持主と同等に練習する事、これは私にとつて筆舌に尽し難いハ少レオバーがな、童労働だつた。家に帰るのがや、と、勉強等は到底出まへん。又翌日、痛い足をひきづつて登校。こういふ生活が毎日続いた。だが夏の強化合宿が終つてから、不思議と以前とは全く異なつた体が出来た自分を見つけた。その一年生の時の初めての合宿これは昼飯が食べられない位つらかつた。だが七日間の合宿に倒れずや

れた事で私の体に少しばかり、俺も人並にやれるぞ、と自信が胎動し始めた。それ以来というものが、ハンドボールが楽しくてたまらなくなつた。いや、ハンドボールが好きになつたのでした。二年の時、アレイングマネージャーをしたのも私のハンドボール部に於ける想ひ出といへば言えるでしょう。

高津を卒業した人で何のクラブ活動もやつていなかつた人は、俺は高津で三年間、何をしても来たんやろうと必ずいいます。だが私にはハンドボールがあつたのです。今でもあの時、もつと練習してれば、この時も、と頑張ればよかつたのになと思つた。今でもあの時、もつと練習してれば、この時々あります。それほど私にはハンドボールと切つても切れない高津高校の生活が生き、と胸の中に生きてゐるのです。先日テレビで中江氏服部氏の出つた試合の实况があつて、それを見てみると、無性にハンドボールがしたくなつた。が、私の様に体のない者にはムリだと思つて今ではあきらめてゐる。ただ高津での苦しか、たけれども楽しかつた合宿、練習、試合の想ひ出を静かに胸に秘めて……

ピチカン